

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社さくら苑		
事業所名	グループホームさくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2		
自己評価作成日	平成28年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年4月19日	外部評価確定日	平成28年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、広い畑や花壇を確保している。天気の良い日に外へ出て野山の景色や日光浴を楽しんだり、畑や花壇の周りを散歩して季節を感じられる様にしている。草木や季節の野菜、果実、花など利用者様と育て、楽しめるような機会を作りたいと思っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>有田町郊外の小高い丘の上にある事業所は、法人代表者がかつて自然に囲まれた環境の中に「民宿・宿泊所」を運営されていた敷地内に山を切り開いて整地され、2つのグループホームが玄関を中心に向かい合い建っている。建物周囲がウッドデッキに囲まれていて、ダイルームのガラス戸からそのまま外へ出入りができ、テーブルや椅子を用意すれば十分に日光浴が楽しめる。目の前にある代表者所有の畑には、季節ごとに収穫できるぶどうや様々な野菜が作られており、その畑で採れる野菜や果物は利用者の食卓に上ることも多い。玄関は解放されており、利用者も自由に出入りができ、面会の方なども気軽に訪問されるなど解放的な施設づくりが感じられる施設である。職員も利用者主体で、その人らしく過ごせるよう、一人ひとりに寄り添い関わりを大切にしている様子がうかがえる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とした事業所の理念と、職員が研修時に学んできた認知症介護の「あいうえお」を朝礼時に唱和している。また、勉強会等でその意味を常に確認して職員全員で共有している。	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とした事業所の理念と、職員が研修時に学んできた認知症介護の「あいうえお」を朝礼時に唱和している。また、勉強会等でその意味を常に確認して職員全員で共有している。	開設時に代表者の思いで作成された理念は、リビングに掲示され、職員は毎朝、唱和を行い意識づけを行なっている。利用者様主体で支援できるように、職員の連携ができています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の職員が多く、近隣の職員もいるので、地区の行事や清掃活動にも参加する様にしている。また、事業所の行事に地域の人たちを招待する等して地域との交流に努めている。	地元の職員が多く、近隣の職員もいるので、地区の行事や清掃活動にも参加する様にしている。また、事業所の行事に地域の人たちを招待する等して地域との交流に努めている。	事業所は自治会に加入はしてないが、代表者が近隣に居住していることから、地域との交流はできている。代表者や職員から情報を得て、地域の清掃作業など職員が積極的に参加している。文化祭には利用者と共に参加したり、事業所で行う秋祭りには家族を始め地域の人を招待している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座では、積極的に講師を務め、認知症の方の理解や支援の方法、対応の仕方などを伝える等、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取組みをしている。	認知症サポーター養成講座では、積極的に講師を務め、認知症の方の理解や支援の方法、対応の仕方などを伝える等、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取組みをしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい2ヶ月に1回開催している。ホームの活動や行事計画を報告したり、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい2ヶ月に2回開催している。ホームの活動や行事計画を報告したり、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、地域の代表者等に2年間の任期で就任いただき、2ヶ月に1度確実に開催されている。日常の取り組み状況やヒヤリハットなどが報告され、議事録も質疑応答形式で記載されている。	運営推進会議の参加者は地域の区長を始め、行政職員などの参加で行われているが、利用者の家族の参加がない。家族会があることから、サービスの質の向上のためにも、運営推進会議への参加の必要性を理解してもらおう等、今後期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者や包括支援センターとは、運営の方法等の相談をしたり、困難事例がある時は相談しケア会議を開くなどの関係作りをしている。また、緊急の受け入れ時にはお互いに連携をしていく協力関係を築いている。	町の担当者や包括支援センターとは、運営の方法等の相談をしたり、困難事例がある時は相談しケア会議を開くなどの関係作りをしている。また、緊急の受け入れ時にはお互いに連携をしていく協力関係を築いている。	運営推進会議のメンバーでもあることから行政担当者とは日頃から親密な関係にあり、困難事例などは直接出向き、助言を得るなど協力関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、外部研修や、社内研修会を開くなどして、基準や法令の正しい理解と、利用者様の尊厳を大切にし、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせずに利用者様になるべく自由に暮らせるよう、さりげなく見守り、支えていくように取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を作成し、外部研修や、社内研修会を開くなどして、基準や法令の正しい理解と、利用者様の尊厳を大切にし、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせずに利用者様になるべく自由に暮らせるよう、さりげなく見守り、支えていくように取り組んでいる。	身体拘束廃止に関しては、研修会を重ね、職員の認識も高く、拘束はない。日中は玄関の施錠はなく、職員が目配りにより利用者が穏やかに過ごせるよう支援している。言葉による拘束もないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、外部研修の参加や社内勉強会を行っている。言葉使いや接遇、家族の思いなど常に職員間で意見を出し合い、不適切なケアを見逃さない様に注意を払い、虐待の防止に努めている。	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、外部研修の参加や社内勉強会を行っている。言葉使いや接遇、家族の思いなど常に職員間で意見を出し合い、不適切なケアを見逃さない様に注意を払い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の状況や想いを常に把握し、関係者と話し合いながら成年後見人や安心サポート活用の支援を行った事がある。支援を通じて学ぶ機会を持ち、必要に応じた支援に取り組んでいる。	利用者様の状況や想いを常に把握し、関係者と話し合いながら成年後見人や安心サポート活用の支援を行った事がある。支援を通じて学ぶ機会を持ち、必要に応じた支援に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書や事業所に相談窓口、担当者を明記している。	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書や事業所に相談窓口、担当者を明記している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の声には、些細な事でも耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。面会時には支援の状況を報告し、定期的に家族会や家族カンファレンス、家族参加の行事を行い、意見や要望を表せる機会を作っている。	利用者様や家族の声には、些細な事でも耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。面会時には支援の状況を報告し、定期的に家族会や家族カンファレンス、家族参加の行事を行い、意見や要望を表せる機会を作っている。	相談・苦情の受付体制、外部の相談機関の明示等、苦情処理に関しては契約時に説明し、玄関にも掲示されている。両ユニット共に意見箱が設置されているがまだ投稿はない。また家族とは日頃から意見を言いやすい関係づくりに努め、担当者会議など家族が参加する機会には発言を促している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、正社員会議・各ユニット会議・全体会議を開催し、代表者と管理者が意見や提案を聞く機会を設けている。また、気が付があれば連絡ノートに記載し意見を求めたり、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している。	毎月、正社員会議・各ユニット会議・全体会議を開催し、代表者と管理者が意見や提案を聞く機会を設けている。また、気が付があれば連絡ノートに記載し意見を求めたり、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している。	毎月開催しているスタッフ担当部署それぞれの会議では、必ず代表者と管理者が同席し、業務に関わる意見、提案を聴くようにしている。また、代表者は年1回、職員の個人面談を行い、意見を聴く機会も設けている。意見や提案は業務に反映させる配慮がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設け、個々にあった労働条件で勤務できるように配慮している。	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設け、個々にあった労働条件で勤務できるように配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修会では、職員が講師となり勉強会や事例発表会を開催している。能力に合った外部研修会への参加を促したり、や講演会が開催されるときには案内を出し参加を呼び掛けている。研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしたり、勉強会を開くなど環境整備に努めている。	毎月の社内研修会では、職員が講師となり勉強会や事例発表会を開催している。能力に合った外部研修会への参加を促したり、や講演会が開催されるときには案内を出し参加を呼び掛けている。研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしたり、勉強会を開くなど環境整備に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、2ヶ月に1回地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や勉強会、事例発表会等を行い交流の機会をつくっている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。	地域の同業者とは、2ヶ月に1回地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や勉強会、事例発表会等を行い交流の機会をつくっている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で、何よりも利用者様との話をする時間を大切に、利用者様の気持ちにしっかりと耳を傾け共感し、信頼される関係づくりに努めている。	日々の生活の中で、何よりも利用者様との話をする時間を大切に、利用者様の気持ちにしっかりと耳を傾け共感し、信頼される関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には自宅や現在生活をされている場所で家族と話し合いの機会を持つようになっている。施設の預けられること等の不安や、色々な要望に耳を傾け、安心して利用できるよう信頼関係作りにも努めている。	サービス開始前には自宅や現在生活をされている場所で家族と話し合いの機会を持つようになっている。施設の預けられること等の不安や、色々な要望に耳を傾け、安心して利用できるよう信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な専門職の立場や意見から、本人や家族にとって何が必要かを話し合い、他のサービスの検討もしながら、入所だけにとらわれない対応に努めている。	色々な専門職の立場や意見から、本人や家族にとって何が必要かを話し合い、他のサービスの検討もしながら、入所だけにとらわれない対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をする、させるという考えに捉われず、1日1日を一緒に生活する者同士の支え合う関係作りを築いている。	介護をする、させるという考えに捉われず、1日2日を一緒に生活する者同士の支え合う関係作りを築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、担当者より毎月ホームでの様子をお伝えする便りを送っている。また、を面会時や電話等で常に本人の状況を報告し、家族と外泊や外食を出来るように調整したり、共に支えていく関係を築いている。	家族には、担当者より毎月ホームでの様子をお伝えする便りを送っている。また、を面会時や電話等で常に本人の状況を報告し、家族と外泊や外食を出来るように調整したり、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の催しや法事などに出席できるよう職員が付き添うなどしてこれまでの関係を途切れない様に支援をしている。また、友人や知人の面会があった時はゆっくり過ごしてもらおうようにしている。花見や陶器市など地域の行事などに参加するようにしている。	家族の催しや法事などに出席できるよう職員が付き添うなどしてこれまでの関係を途切れない様に支援をしている。また、友人や知人の面会があった時はゆっくり過ごしてもらおうようにしている。花見や陶器市など地域の行事などに参加するようにしている。	入居の際に、これまで大事にしてきた関係について、利用者本人や家族などから情報を得ている。利用者が望まれる美容室には職員で対応している。また、友人や知人の面会時は湯茶の接待を行い、ゆっくり過ごしてもらおうことで、関係が途切れないような支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席やソファの位置、居室などの配慮や、対応を心がけている。また、目や耳が不自由な利用様でも孤立しないようなレクリエーション等の工夫をし、利用者同士が良い関係で関わり合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、席やソファの位置、居室などの配慮や、対応を心がけている。また、目や耳が不自由な利用様でも孤立しないようなレクリエーション等の工夫をし、利用者同士が良い関係で関わり合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、その後のサービスについても必要に応じて支援が出来るように取り組んでいる。また、長期入院になられた場合でもお見舞いに訪問し退院後の相談にも乗っている。	利用が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、その後のサービスについても必要に応じて支援が出来るように取り組んでいる。また、長期入院になられた場合でもお見舞いに訪問し退院後の相談にも乗っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、利用者様の想いを汲み取ることに努め、自律を大切にケアプラン作りに努めている。希望を表現しにくい利用者様は、これまでの生活歴や家族から話を聞くなどして、より本人本位となるような支援に努めている。	日々の関わりの中で、利用者様の想いを汲み取ることに努め、自律を大切にケアプラン作りに努めている。希望を表現しにくい利用者様は、これまでの生活歴や家族から話を聞くなどして、より本人本位となるような支援に努めている。	入居時に得た本人の生活歴や職歴の情報を基に、日々の関わりの中で寄り添い会話することで、思いや意向の把握に努めている。職員は、入浴時や散歩時などを活用して利用者とはゆっくり話ができる時間を確保しており、意向・思いを十分に把握している。意思表示が困難な利用者については、家族の協力を得ながら利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族、関係者より話を聞き、生活歴、生活環境の把握に努めている。また、ケース会議などで職員全体で把握し、その人らしく暮らし続けるための支援に努めている。	利用者本人や家族、関係者より話を聞き、生活歴、生活環境の把握に努めている。また、ケース会議などで職員全体で把握し、その人らしく暮らし続けるための支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、一人ひとりの心身機能の状態の変化を把握し、自立を促す援助方法を話合っている。また、一日の過ごし方の中から精神状態の変化を把握して不安を解消できるように努めている。	日々の関わりの中で、一人ひとりの心身機能の状態の変化を把握し、自立を促す援助方法を話合っている。また、一日の過ごし方の中から精神状態の変化を把握して不安を解消できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議では様々な立場から意見を出し合い、3ヶ月毎のモニタリングでは、本人や家族の話、時には主治医の意見を聞き、見直ししながら、一人ひとりの個性に即した介護計画を作成している。	毎月のケース会議では様々な立場から意見を出し合い、3ヶ月毎のモニタリングでは、本人や家族の話、時には主治医の意見を聞き、見直ししながら、一人ひとりの個性に即した介護計画を作成している。	本人の言葉を軸に家族の意向や職員の意見などを踏まえ、話し合いを重ね、現状に即した介護計画が作成されている。計画の見直しは、設定期間ごとではあるが、変化があればその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって、日々のケアや心身の状況を個別に記録し、職員全員で共有している。また、気づきを申し送りノートに記録し、見直しに活かしている。	介護計画にそって、日々のケアや心身の状況を個別に記録し、職員全員で共有している。また、気づきを申し送りノートに記録し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	両ユニット間の交流、隣接するデイサービスとの交流、地域やボランティアとの交流、または、ニーズに合わせた外部サービスを取り入れた支援にも柔軟に対応している。	両ユニット間の交流、隣接するデイサービスとの交流、地域やボランティアとの交流、または、ニーズに合わせた外部サービスを取り入れた支援にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時などは予め下見を行い、時にはその担当者や協議して安全を確保できるか検討し、協力を得ながらその資源の中で本人の力で楽しむことができるように支援している。	外出時などは予め下見を行い、時にはその担当者や協議して安全を確保できるか検討し、協力を得ながらその資源の中で本人の力で楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される主治医と連携を図り、月に1回以上は受診・往診を受けられるように支援している。ご家族と主治医には常に状態を報告し連携を取りながら、本人やご家族が望まれる治療を受けられるように支援している。	希望される主治医と連携を図り、月に2回以上は受診・往診を受けられるように支援している。ご家族と主治医には常に状態を報告し連携を取りながら、本人やご家族が望まれる治療を受けられるように支援している。	入居後も従来のかかりつけ医による受診とし、利用者・家族の希望が無い限り変更はしない。協力医の往診と同じく従来のかかりつけ医の往診も受けている。受診は職員が対応しているが、結果は必ず家族に報告し、適切な医療の提供ができています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には日々の利用者の状態や変化を伝え、異常の早期に発見と対応出来るようにしている。また、適切な処置が受けられるよう看護師と介護職員の情報共有に努めている。	看護職員には日々の利用者の状態や変化を伝え、異常の早期に発見と対応出来るようにしている。また、適切な処置が受けられるよう看護師と介護職員の情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や経過カンファレンス時には職員も家族と一緒に出席し、情報の交換、退院について話し合うようにしている。また、入院期間中は地域連携室と連絡を取り合い病状の経過や退院後の対応について話し合っている。	入院時や経過カンファレンス時には職員も家族と一緒に出席し、情報の交換、退院について話し合うようにしている。また、入院期間中は地域連携室と連絡を取り合い病状の経過や退院後の対応について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化、看取りに関する指針」を作成し、入所時より段階ごとに話し合う機会を設け意向を確認するようにしている。ご家族・主治医と十分に話し合い、本人と家族の意向をふまえ、安心して最期を迎えられるよう、関係者と連携しながら支援に取り組んでいる。	「重度化、看取りに関する指針」を作成し、入所時より段階ごとに話し合う機会を設け意向を確認するようにしている。ご家族・主治医と十分に話し合い、本人と家族の意向をふまえ、安心して最期を迎えられるよう、関係者と連携しながら支援に取り組んでいる。	入居契約時に利用者・家族に重度化や終末期に向けた方針について説明し承諾を得ている。これまでも看取りの経験があり、その状態に陥った時は段階に応じて、主治医を含めて話し合いを行い、本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来て頂き、救急救命や心肺蘇生の講習会を開催し、全職員が定期的に訓練を行っている。	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来て頂き、救急救命や心肺蘇生の講習会を開催し、全職員が定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、夜間を想定して避難・消火・通報訓練をより実際に近い形で行っている。また、近隣住民の皆様にも訓練に参加いただき協力体制を築いている。今後は地震や水害なども想定した訓練や自治体との協力体制を築いていきたい。	消防署の立会いのもと、夜間を想定して避難・消火・通報訓練をより実際に近い形で行っている。また、近隣住民の皆様にも訓練に参加いただき協力体制を築いている。今後は地震や水害なども想定した訓練や自治体との協力体制を築いていきたい。	火災に対する訓練は年2回実施し、夜間想定した訓練は夜間に近い時間で行われている。職員は消火器の使い方や緊急通報の手順も熟知できている。また飲料水や食料品などの備蓄も整っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として人格を尊重し、利用者様の立場に立った言葉かけと自尊心を傷つけないケアを心がけている。また、個人情報利用やプライバシー保護のマニュアルを作成し研修を行い責任を確認している。	常に人生の大先輩として人格を尊重し、利用者様の立場に立った言葉かけと自尊心を傷つけないケアを心がけている。また、個人情報利用やプライバシー保護のマニュアルを作成し研修を行い責任を確認している。	個人情報に係る同意書があり、契約時に利用者、家族に承諾をいただいている。リビングの壁に貼られている写真についても承諾を得ている。利用者を年長者として敬意を払い、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応をしている。	
----	------	---	--	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の時間は大切にし、特に傾聴することを心がけている。利用者が自己決定し易いような問いかけで自己決定を促し、決定されたことは尊重し、出来る限り希望に添った支援と利用者中心のケアを心がけている。	利用者様との会話の時間は大切にし、特に傾聴することを心がけている。利用者が自己決定し易いような問いかけで自己決定を促し、決定されたことは尊重し、出来る限り希望に添った支援と利用者中心のケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった環境の中でも、利用者様が中心に支援させて頂く事を心がけ、自己決定を尊重し、その日の希望に柔軟に対応するように努めている。	決まった環境の中でも、利用者様が中心に支援させて頂く事を心がけ、自己決定を尊重し、その日の希望に柔軟に対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族に好みを聞き服を買ったり、訪問美容やお化粧品、ネイルなど、歳をとってもおしゃれが出来る喜びを支援している。また、季節の行事には着物を着付け参加して頂いたりしている。	本人や家族に好みを聞き服を買ったり、訪問美容やお化粧品、ネイルなど、歳をとってもおしゃれが出来る喜びを支援している。また、季節の行事には着物を着付け参加して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。また、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に食事を楽しみながら食事をしていく。窓から見える畑からは季節の野菜が採れ、楽しみにもなっている。	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。また、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に食事を楽しみながら食事をしていく。窓から見える畑からは季節の野菜が採れ、楽しみにもなっている。	代表者が献立を作成している。利用者の要望があれば、献立を変更し調理されることもある。昼食はスタッフも利用者と共にテーブルで同じ物を食べ、楽しい会話をしながら食事時間を楽しんでいる。また外出する際には、回転寿司など外食する機会も多く、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた、食事・水分量や食事形態、栄養状態など、主治医や看護師とも連携しながら毎日管理をしている。また、能力に合わせた介助と個々の習慣に応じた提供時間の工夫など、経口摂取による栄養確保に努めている。	一人ひとりの状態に合わせた、食事・水分量や食事形態、栄養状態など、主治医や看護師とも連携しながら毎日管理をしている。また、能力に合わせた介助と個々の習慣に応じた提供時間の工夫など、経口摂取による栄養確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた介助と状態に合わせたブラシを使い分け、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けてたり、口腔機能研修会に参加するなど、口腔ケアの大切さも重視している。	毎食後、個々の能力に応じた介助と状態に合わせたブラシを使い分け、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けてたり、口腔機能研修会に参加するなど、口腔ケアの大切さも重視している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い本人の排泄リズムを把握し、おむつを使用されている方でもトイレへ誘導し、動作の介助を行う事でトイレでの排泄が出来るように支援したり、布パンツへ戻し自立した排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を用い本人の排泄リズムを把握し、おむつを使用されている方でもトイレへ誘導し、動作の介助を行う事でトイレでの排泄が出来るように支援したり、布パンツへ戻し自立した排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を用いて利用者の排泄パターンを把握している。紙パンツや尿パットを必要に合わせて使用されているが、利用者の一人ひとりに合わせた排泄支援を心がけ、さりげなく誘導することにより、自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を取り入れたり、乳製品や水分摂取、日常生活リズムを整え、自然に排便ができるように支援している。また、看護師と毎日の排泄状況をチェックし、必要がある時は下剤での調整も行っている。	食事に食物繊維を取り入れたり、乳製品や水分摂取、日常生活リズムを整え、自然に排便ができるように支援している。また、看護師と毎日の排泄状況をチェックし、必要がある時は下剤での調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮し昼間にはなるが、本人の体調や意思を確認し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにしている。また、入浴以外には足湯などの支援も行っている。	安全に配慮し昼間にはなるが、本人の体調や意思を確認し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにしている。また、入浴以外には足湯などの支援も行っている。	入浴は、基本的に週2回から3回となっている。毎日2ユニットのいずれかで入浴できるよう準備されており、入浴を嫌がられる場合でも無理強いはせず、個々に応じた支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行い、夜間は安心して眠れるように、言葉かけや空調・照明など環境に配慮している。薬を使用する場合は、主治医・看護師と相談し、注意を払いながら調整をしている。	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行い、夜間は安心して眠れるように、言葉かけや空調・照明など環境に配慮している。薬を使用する場合は、主治医・看護師と相談し、注意を払いながら調整をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は個人ごとにファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に相談し本人に合わせた薬の調整を行っている。服薬のチェック表を用い誤薬の防止に努めている。	服薬の情報は個人ごとにファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に相談し本人に合わせた薬の調整を行っている。服薬のチェック表を用い誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、個々の能力に合わせた役割(野菜の皮むきや食器お膳拭き、洗濯物等)を持てるように支援している。また、趣向に合わせた、絵手紙教室や舞踊、大正琴演奏などのボランティアの受け入れや、ユニット間交流、散歩などの気分転換の支援もしている。	日常生活の中で、個々の能力に合わせた役割(野菜の皮むきや食器お膳拭き、洗濯物等)を持てるように支援している。また、趣向に合わせた、絵手紙教室や舞踊、大正琴演奏などの地域のボランティアの受け入れや、散歩などの気分転換の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、畑を散歩したり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。地域の行事のときは、場所の配慮などの協力してもらっている。また、家族の要望があれば、法事などの家族行事の際に職員が付き添うなどの支援も行っている。	気候の良い日には、畑を散歩したり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。地域の行事のときは、場所の配慮などの協力してもらっている。また、家族の要望があれば、法事などの家族行事の際に職員が付き添うなどの支援も行っている。	買い物、ドライブなど利用者の希望があれば職員はできる限り支援している。また季節に応じた花見やドライブ、地域の行事参加など何時でも外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接、現金を持つての買い物は少ないが、外出時に職員が付き添って気に入ったものを購入されている。また、パンやお菓子の移動販売に来られた時には自分で好きな物を選び購入される。	希望があれば家族の了解を得て、少額のお金を所持されている利用者様もおられる。外出時には好きな物を選び、買物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは少ないが、レクリエーションで作成した絵手紙や暑中見舞、年賀状を書かれている。本人の要望があれば家族に電話をかける支援をしている。	手紙のやり取りは少ないが、レクリエーションで作成した絵手紙や暑中見舞、年賀状を書かれている。本人の要望があれば家族に電話をかける支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、外の季節を感じられるよう窓を広く設け自然の光を多く取り入れた開放的な空間となっている。また、季節に合った手作りの飾りつけや、花を飾り生活の中に季節を感じられるように工夫している。	施設内は、外の季節を感じられるよう窓を広く設け自然の光を多く取り入れた開放的な空間となっている。また、季節に合った手作りの飾りつけや、花を飾り生活の中に季節を感じられるように工夫している。	両ユニット共に一日の大半を過ごすリビングは、テーブル・椅子が設置され、また畳の部屋が設けられており、利用者はお気に入りの場所でテレビを觀賞したり思い思いに自由に過ごせる工夫がなされている。大きな窓からは、一面の野菜畑になる多種の野菜が目に入る。建物の周囲がウッドデッキに囲まれていて、暖かく天気の良い日には自由に室外へ出て日光浴を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり、疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり、疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自分で塗られたカレンダーを貼られたり、家族の写真などが飾られている。テーブルやテレビ等を持ち込まれたり、お位牌なども部屋に置かれ安心して過ごせるように支援している。	居室は、自分で塗られたカレンダーを貼られたり、家族の写真などが飾られている。テーブルやテレビ等を持ち込まれたり、お位牌なども部屋に置かれ安心して過ごせるように支援している。	居室は広く、車椅子でも対応できる。ベッドは施設で準備され環境も整っている。馴染んだ品物の持ち込みの制限はなく、利用者それぞれが写真など馴染みの物を持参されている。本人本位の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間では、安全に歩行器や車椅子移動が出来るように空間を十分に確保し、その方に合わせたテーブルや椅子の位置などを工夫している。また、居室では、ベットや手すりの位置などを一人ひとりに合わせて変更するなど、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。	共用空間では、安全に歩行器や車椅子移動が出来るように空間を十分に確保し、その方に合わせたテーブルや椅子の位置などを工夫している。また、居室では、ベットや手すりの位置などを一人ひとりに合わせて変更するなど、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない